

石榑道路 県境にトンネル新設



東近江・三重北勢 安定の交通確保へ 地域間交流、活性化に期待

滋賀県と三重県の県境をトンネルなどで整備する国道421号「石榑峠道路」(国直轄事業)が着手されることになり、二十七日、三重県いなべ市大安町で安全祈願祭が行われたほか、東近江市山上町の永源寺地域産業振興会館で起工式が開かれた。同道の完成によって、冬期の長期閉鎖が解消されるとともに通行時間が短縮され、近畿と東海を結ぶ幹線道路として地域振興に期待がかかる。

石榑峠道路は、八風街道の愛称で親しまれている。しかし、鈴鹿山脈を横断するため県境付近の道幅は狭く、急勾配・急カーブの連続で二キロ(の一部道路)の古くから

冬期は長期の閉鎖が続き、年間三分の一が道路として使用できない状況にある。

このため、東近江市黄和町から三重県いなべ市大安町を結ぶ四・五キロの改良工事(片側一車線・幅約十メートル)を進め、この間に、約四・一キロのトンネル(同幅約九メートル)を新設する。

これにより、約十一キロあった道路は四・五キロになり、走行時間も約三十分から五分に縮まるという。貫通は平成二十一年三月の予定だが、道路の供用開始はその数年後になる見通し。総事業費は約百五十億円。起工式には、国松善次

知事や野呂昭彦三重県知事代行、中村功一東近江市市長、日沖靖いなべ市長のほか、両県選出の国会議員、国土交通省職員ら約二百人が出席。

藤本貴也国土交通省近畿地方整備局長は「この事業で安定的な交通が確保され、地域間交流の拡大や地域の活性化に寄与すると確信している」と式辞を述べた。また、早期実現を国、県に要望してきた整備促進期成同盟会(合併前の関係三市十一町で構成)会長の中村市長は「年間を通じて往来できる道路の確保は、両地域の振興



くわ入れを行う滋賀、三重両県の関係者ら(永源寺地域産業振興会館)

と発展に大きな期待が寄せられ、人・物・文化などの交流メリットは計り知れないものがある。また、名神、名阪、第二名神を結ぶ主要な幹線道路としても期待がかかり、一日も早い完成を願っている」とあいさつした。この後、工事の安全を願い、両県の関係者らによる鉄入れ式が行われた。